

雨と自転車と私

恵明中学校3年 角井 いち

今年もこの季節がやってきました。この季節になると、私は毎日天気予報を欠かさず見ます。その時雨マークがあると、私の朝は途端に慌しくなります。なぜなら、今日は自転車登校にするべきか、歩いて登校するべきか、悩む時間が必要になるからです。歩いて登校すると四十五分かかるところ、自転車に乗ると十五分で学校に着くことができます。いかにルールのギリギリのラインを狙って自転車登校をするか。それは私の学校生活で重要な問題なのです。

朝から雨が降っているのならば、学校生活への支障を考え、素直に諦めます。悩ましいのは、午後の雨です。私は天気予報をよく見て、帰宅時刻まで天気が持つかどうかを見極めます。できる限り自転車に乗れることを願いながら。

また、一日の降水確率が八十パーセントの場合も悩ましく思います。八十パーセントという数字は、確実に雨が降るかのような印象を与えます。それは私の心が折れるほどのインパクトがあります。自転車に乗れる余地はもうないのでしょか。私は冷静に考え、気づきました。二十パーセントの確率で晴れるということに。二十パーセントとはすなわち、五分の一です。そう考えると雨は降らない気がしてきませんか。よって私は諦めずに、自転車に乗れる可能性について検討し続けます。このような経験を重ね、降水確率が九十パーセントを超えている場合は自転車に乗らないほうが良い、ということも学びました。

そして、最も判断に困るのは、朝から空模様が怪しいときです。今にも降りそうな、もしかするともうすでに降っているのか、そんな天気の日です。このような場合、私は外の音に耳をすませます。日本には様々な雨のオノマトペがあります。ザーザー、しとしと、ぽつぽつなどです。私はこれらを聞きわけて今日は自転車登校できるかを考えます。「ザーザー」であったら、もちろん諦めるしか選択肢はありません。「しとしと」であっても、悔しい気持ちはありますが、歩いて登校するほかありません。しかし、「ぽつぽつ」であったら。自転車で登校できる可能性が見え、私は迷います。そんなとき、私は両親にたずねます。

「今日って自転車で登校できると思う？」

そうすると、両親はたいてい、

「自転車登校できると思うよ。」

と、答えてくれます。

両親の心強い言葉があれば、私は安心して自転車の鍵を用意することができます。なぜなら、もし先生に注意されたとしても、親という免罪符があるからです。

雨と自転車と生活していく中で様々な経験をし、時に失敗しながらも、私の自転車に乗れるかどうかの判断の精度は上がっていきます。

しかし、事件は突然起こるのです。その日は降水確率が高く一日中雨予報の日でした。朝から空はどんよりくもっていて、雨は確実に降るだろうと考え、歩いて登校しました。誰もが傘を持ち登校していたため、自分の判断に自信を持っていました。

ところが、給食前のことです。目になにか違和感を覚えました。恐る恐る、窓の方へ目を向けると、次第に目に入る光の量が多くなっていきます。まさか、と思い窓の空を見ると眩しい太陽と途切れ途切れの青空がありました。下校するときにはすっかり晴天で、私は使い道のなくなったビニール傘を手に持ち絶望しました。ただこの失敗をそのまま終わらせてはいけないと思います。失敗こそ大切に、私のこれからの自転車登校につなげていきたいです。